

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会  
地域共生型社会推進事業助成金

## 事業完了報告書（公開用）

### 1、概要

報告日	平成 29 年 4 月 17 日
報告者	代表 西村俊昭
助成団体名 (所属団体名)	TEAM CHAKKA
団体住所	〒 527-0162 滋賀 都道府県 東近江市妹町 70 番地あいとうエコプラザ菜の花館内
団体電話番号	0749 - 46 - 8100
代表者 (助成対象者)	西村俊昭
助成対象事業	地域共生型の着火材づくりによる就労支援事業
事業（助成）期間	平成 26 年 8 月 ~ 平成 29 年 3 月
事業費総額	3,259,000 円
助成金総額	800,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

#### 注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま [shigakyo@cello.ocn.ne.jp](mailto:shigakyo@cello.ocn.ne.jp) へメールにてお送りください。

## 2、事業内容

引きこもりや障がいを持つ就業準備中の若者を、“働きもん”と呼んでいる。本プロジェクトでは“働きもん”の本格的な就労に向けた準備を行う働く場を創造するために、地域の未利用資源を活用・商品化するソーシャルビジネスの枠組みを構築した。それと同時に、“働きもん”がその働きにより、人生が変わった物語を伝え、“働きもん”と商品の資材調達・製造・販売に係る地域の様々な組織をつなげ、“働きもん”の応援団を構築してきた。活動の第1弾は、これまで廃棄されてきたくん炭又は木くずと、冠婚葬祭での使用済キャンドルやろうそくからつくる着火材づくりである。第2弾は、滋賀県の環境運動の象徴であるリサイクルせっけんの利用拡大と販売価格アップをめざす「愛しゃぼんジェル」づくりである。

### ■資材調達：2014年8月5日～2017年3月14日

2014年度は、廃ろうそう・キャンドルの提供を依頼して、かめやまろうそく、五環生活、花治、JAグリーン近江、JA滋賀蒲生町、蒲生地区まちづくり協議会、ハイアットリージェンシー京都の応援団を開拓して、適宜、提供を受ける。

2015年5月1日～2017年3月14日 月1～3回 48回 主にハイアット京都 カメヤマろうそくに、月2回程度 48回訪問 廃ろうそくを受取る。

当初は働きもんのサポートメンバーが受取に行っていたが、2015年9月からは“働きもん”も同行するようになり、中間就労の場となる。

廃くん炭は、エコ倶楽部から安定的に提供を受ける。

木くずは、松田建具店から安定的に提供を受ける。

### ■生産

着火材、愛しゃぼんジェルづくり：2014年8月5日～2017年3月30日

月・木曜日：着火材、愛しゃぼんジェルづくり

水曜日：袋・箱詰め、タグ張りなど

325日働き場の提供

31人、述べ1,443人・日の参加

1人当たり平均46日参加

7人が卒業（一般就労）

### ■販売

・2014年は在庫がない状態でのスタートのため、十分な販売促進活動ができない状態で、バーベキュー用の着火材 CK-120、CKS-060 は、近隣キャンプ場である妹背の里・希望ヶ丘・グリムの森・愛郷の森・高取山での委託販売、竜王町・日野町・近江八幡市・東近江市職員へ直接販売、今井燃料、田中屋を経由したアヤハへ販売できた。薪ストーブ用の着火材 CKB-600（12箱入）は、薪遊庭、京都森のちから、Heart Country Stove、Hibana、ヴァニラリーフ、流域圏デザインプロジェクトへ販売できた。

・2015年度からは全国のキャンプ場や薪ストーブ店に、サンプル付きのDM送付やイベント直売での販促活動を行い、キャンプ場 35、薪ストーブ、ペレットストーブ 15店の顧客確保を確保できた。

・2016年度は、主力と想定した薪ストーブ用着火材の販売が課題となったため、くん炭着火材の短所をクリアーした木くず着火材の商品化を行った。

2014年度（8月～3月） 346,910円

2015年度 936,704円（うち愛しゃぼんジェル 52,200円）

2016年度 1,093,939円（うち愛しゃぼんジェル 48,900円）

#### ■愛しゃぼんジェル

2015年度からは TEAMCHAKKA の第2弾の取組として、廃食用油からつくるリサイクルせんけん「あいしゃぼんジェル」の生産、菜の花館、Mitte、スプーンの3店舗で販売している。

### 3、事業成果

#### ■CATCH FIRE の製造・販売による就労支援効果

##### ・申請時

・着火材製造：週 2 回 3 時間で毎回約 4 名（年間述 1,152 時間の就労支援）

年間述 1,152 時間＝2 回/週×3 時間/回×4 人/回×4 週/ヵ月×12 ヵ月/年

・販売用の箱詰めや袋詰め：障害者の作業所に委託する計画

##### ・2016 年度

・着火材製造：週 2 回 3 時間 月・木曜日 年間述 1,659 時間/年÷90 回/年÷3 時間/回≒6.1 人/回

・TEAMCHAKKA で実施。販売用の箱詰めや袋詰め：週 1 回 3 時間 水曜日 年間述 498 時間÷37 回/年÷3 時間≒4.4 人/回

#### ■着火材づくりによる地域共生型の連携創出の効果

##### ・申請時

引きこもりなど障害者手帳を持たない就職準備中の若者たちの就労支援のために、着火材づくりを核に、資材調達・製造・販売の係る地域の様々な組織の連携づくりができる。

##### ・2016 年度

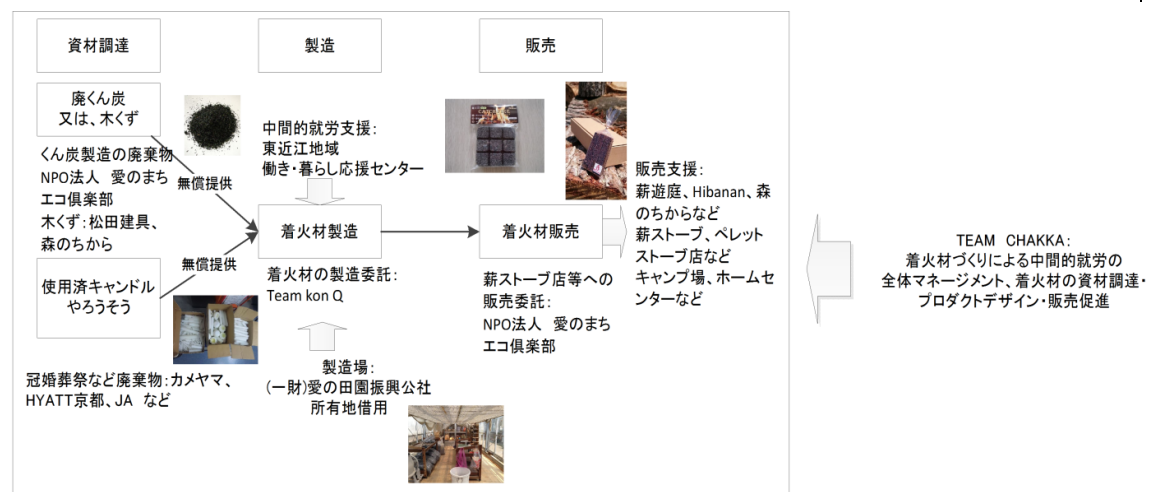
販売店 53 店舗、資材提供 8 組織、生産 5 組織の連携構築

#### ■資源循環型社会の形成効果

##### ・申請時

これまで使用されていなかったくん炭（お米のもみ殻を低い温度で焼いた炭）製造の際に発生する廃くん炭と、冠婚葬祭での使用済キャンドルやろうそくで、使われてないものを活用する資源循環でエコな商品です。

##### ・2016



#### 4、今後の課題など

##### ■販売に係る連携組織の増加

CATCH FIRE の製造・販売による就労支援効果を増加させるために、DM など販促の強化により販売に係る連携組織の増加が課題である。

##### ■働きものの物語の発信

TEAM CHAKKA の着火材は、引きこもりや障がいを持つ就業準備中の若者が、精込めて作っている。我々は彼らのことを“働きもん”と呼んでいる。我々は着火材を通して、つくり手である“働きもん”が着火材をつくる働きにより、人生が変わったものがたりを伝えたい。製品の裏側にある見えない価値を知らせ、“働きもん”と皆さんをつなげたい。このため、働きものの物語をどのように伝えるかが課題である。